

事業の背景・目的

宮崎県内には「種の保存法」に基づく国内希少植物種13種の自生が確認されているが生育の現状把握さえも不十分である。このため、宮崎植物研究会がこれまで保全に取り組んできたヒュウガタイゲキに加えて、ヒュウガシケンダ、タコガタサギソウ、ヒナヒゴタイ、ハツシマランを対象種にし、自生地での生育環境や生育状況、個体数等を調査する。さらに調査結果を検討して今後の保全計画を策定する。また、保全計画に沿って保全対策を実施し、これら国内希少植物種の安定的な保全に資する。

事業の内容

・実績報告書（別紙10－3）を基に、実施した事業結果の概要を簡潔に記載。事業が複数ある場合や、複数年度にわたる場合には、枠囲みを用いるとわかりやすい。

事業① 現地調査事業

- ・ヒュウガタイゲキは遷移進行で生育状態が悪化している。
- ・ヒュウガシケンダは2市村で3ヶ所の自生地があるが、局地的な大雨災害で個体数が減少し生育状況も悪化している。
- ・タコガタサギソウは10株しか確認できない。
- ・ヒナヒゴタイは野焼きでようやく保全できている。
- ・ハツシマランは20個体が国有林内に生育している。

事業② 保全対策検討事業

- ・各種の現状を踏まえて、課題を抽出し対策を検討した。
- ・地権者への説明に努め、理解を得るようにした。
- ・地元市町村との連携も模索した。

事業③ 保全事業

- ・ヒュウガタイゲキは2月に生育地内に生育する他種の地上部刈取、抜根、樹木伐採を実施した。
- ・ヒュウガシケンダは生育地の土砂及び流木の撤去、溪流部の整地、鹿ネット被覆を実施した。

得られた成果

- ・ヒュウガタイゲキは宮崎植物研究会の保全活動で自生地が維持できているが、本事業を活用することで個体数が明らかとなり保全対策を改めて考える良い機会となった。
- ・ヒュウガシケンダは山地溪流に生育し大雨等の自然災害、シカの食害で群落維持が難しくなっている現状が明らかになった。椎葉村の自生地ではシカネット設置と生育環境整備を行ったので、次年度以降に経過を見ていく予定である。
- ・タコガタサギソウは極めて個体数が少なく、生育環境も悪化している現状が明らかとなった。
- ・ヒナヒゴタイは採草地に生育し地域で野焼きを実施することで個体数が維持できている現状が明らかとなった。
- ・ハツシマランは国有林の不安定な斜面に少数生育し、大きな環境変化を受けやすい現状が明らかとなった。